

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2773801085		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホーム こころあい		
所在地	大阪府 羽曳野市 島泉4-3-18		
自己評価作成日	平成 23年 2月 20日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2773801085&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 3月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的(家族的)な雰囲気大切に、入居者様にとってやすらぎある我が家となるようなホーム作り。 ・三位一体(入居者様、家族様、職員)でのホーム作り。 ・地域密着型サービスとして、地域との繋がりを大切に、家族介護教室の開催や地域の方々との交流を通じ地域に根付くホーム作り。 ・市内の他ホームとの交流を通じ、合同での介護フォーラムの開催やこころあい通信の発行等、認知症や高齢者介護に関する情報を提供し、地域貢献ができるホーム作り。 ・単独でのホーム運営に留まらず、同法人内の各グループホームとの協力体制を構築し、サービス提供の質向上を図れるホーム作り。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者の自宅を改修して造られた民家改修型のグループホームで、開設1年後に敷地内に増築し、2ユニット目ができました。住宅の中にある一軒家で、すぐ裏手には小学校もあり、ネット越しで子どもと会話することができ、昼休みには子どもの声が聞こえてくような環境で、利用者も自分のペースで穏やかに過ごしています。全職員が一丸となり、「その人らしさ」を大切に、利用者の思いの把握や日々の支援に関わり、よりよいサービスの提供を目指しています。毎月「こころあい便り」を家族に郵送し、担当者がそれぞれに心をこめた手書きの状況報告を作成し、添付しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念「心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を、ホーム内数か所に掲示し、理念に託した思いも含め、職員間はもちろん、地域の福祉委員、家族様とも理念を共有している。家族様への毎月のお便りにも掲載し、地域の住民や当ホームに関わる全ての人々が心豊かに安心ある生活を送れるようにと取り組んでいる。	2ユニットを開設する際に、理念を見直し、職員とともに考え作り上げています。ホームの屋号とも結びつけ、「心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を理念に掲げ、職員全員で理念を共有し、利用者の日々の支援に取り組んでいます。職員の新入社時にも、理念の意義について掘り下げて研修を行い、意識付けを行っています。理念は玄関、廊下に貼り、また毎月発行される「こころあい便り」にも毎回掲載し、利用者、家族にも理念に基づく職員のケアの取り組みが伝わるような配慮があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員との花見や紅葉、小学校との交流会、運動会の見学、中学生の職場体験受入、散歩、なじみの店への買い物等、地域住民との交流を大切に、地域の一員として繋がりをもてるよう、理念に掲げる「その人らしさ」を大切にしている。また、AEDの設置、こころあい通信の発行等を通じ、地域に役立てるよう取り組んでいる。	利用者は全員自治会に入会しており、地域の老人会のお誘いなどを受けて、お花見などに参加し、地域の方との交流があります。南京玉すだれや銭太鼓、職員の知り合いの方で民謡、三味線などのボランティアの訪問もあります。ホームの裏手には小学校があり、昼休みには子どもたちの声が聞こえたり、ネット越しで子どもたちが声をかけてくれたり、折り紙を手渡してくれたりしています。中学生の職業体験受け入れも行っています。「こころあい通信」も地域に回覧しています。AED（自動体外式除細動器）の設置もしており、玄関には設置看板を出し、外部の方にお知らせしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室、介護フォーラム、こころあい通信を通じ認知症や高齢者の介護に関する情報提供や、相談会を行っている。また、地域住民との交流を通じ、認知症高齢者への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の近況報告、当ホームの取り組み、行事の報告、家族様からの意見や要望等を報告し、参加者からの意見を頂き、サービス内容向上に活かせるよう取り組んでいる。会議等で頂いた意見は職員にも報告し、新たな取り組みやホームの運営に活かしている。	運営推進会議は、地域の知見者で構成された「みやびネット」の定例会議と同日に開催され、職員は「みやびネット」の会議から参加し、地域の方との意見交換も常時できています。開催は年6回実施し、参加者は、市職員、地域包括支援センター職員、校区福祉委員、家族が参加しています。ホームからは、入居状況や行事の報告などを伝え、参加者から内容についての質疑応答などをして意見交換を行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけではなく、日常においても相談や問題（苦情・事故）が生じた場合は、必ず連絡を行い助言を頂きながら、協力関係の構築に取り組んでいる。	市の担当者とは日頃から相談など窓口で話しやすい関係作りができています。事故報告など速やかに提出しています。市の委託で、家族介護の教室を年3～4回実施しています。また年1回市内のグループホーム7事業所が合同で、介護フォーラムを開催し、市民の方との交流の場でもあります。市の担当課主催でグループホーム部会が年6回開催されています。その部会の中で、グループホームの紹介などを市役所の場所を借りて展示したいとの要望も受け入れてもらい、実現しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の研修をとおり、理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、身体に限定しない「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。</p> <p>玄関の施錠に関しては、家族会の希望と建物の構造上施錠を行っているが、入居者様の希望があれば随時職員が同行し戸外へ出て頂いている。</p>	<p>前回の外部評価受審以降、玄関ドアの解錠について、職員、家族にも意見を聞き、話し合った結果、玄関ドアには解除方法を書いた紙を貼り、利用者が自由に開けることができるよう改善されました。利用者には、閉塞感のないよう、様子を見ながら職員と一緒に外に出たりするなどして、継続して支援しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム内の研修をとおり、理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、虐待防止に取り組んでいる。また、管理者、両棟主任が役割分担し定期的なヒヤリングを行うことで、職員のストレスの軽減に努め、虐待防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者家族様には伝えているが、現在利用している人はいない。</p> <p>必要時に活用できる様に、ホーム内の研修を通じ理解を深めるよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、その後の紛争を未然に防ぐ意味合いにおいても専門的な用語を使わず、項目ごとに詳しく分かり易く説明するように心がけ、ホーム側からも不安や疑問点を項目ごとに尋ね、十分な説明、理解・納得を図るよう心掛けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のケアの中で、入居者様の意見や要望等はコミュニケーションを通じ確認するように努めている。また家族様等には家族会、運営推進会議、アンケートなどを通じ意見を頂き、些細なことでも言い易い環境づくりを心掛けている。民生委員の窓口や大阪府社会福祉協議会の苦情相談窓口の案内を玄関に掲示、ホーム内でも苦情相談窓口を設け随時受け付け、ホームの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族会の開催頻度や構成、看取りに関することなどを利用者の家族にアンケートをとり、要望や意見を聞いてホームの運営に反映するようになっています。利用者にはレクリエーション内容の希望などを聞き、できるだけ取り入れるようになっています。また、日々の関わりの中で、利用者がなにげなく口にしたことなどの意味をしっかりと理解し、思いを汲み取るようになっています。玄関には意見箱の設置をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な個別面談、アンケートを通じ職員の意見を把握、会議にて報告し反映させるようにしている。日常も毎月の定例会議やカンファにおいて意見を述べる機会を作り、運営に反映させている。</p>	<p>年2回の主任・管理者との面談を行う前に、「自己課題用紙アンケート」を記載して、現状のケア内容の把握を行っています。管理者や主任は、職員の相談や意向を聞き、信頼関係を築いています。月1回行われる「スタッフの集い」では職員が利用者のカンファレンスを行ったり、要望など積極的に意見を出し合い話し合っています。重度化に伴い、入浴リフトの導入に関しても現場職員からの要望で取り入れられました。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表作成にあたり、事前に希望休暇を3日間訊いており、他にも個々人の諸事情に応じる勤務体制を整備している。また、やりがいや向上心を持ってもらえるように、仕事への動機付けを説明し、自発性に結び付くようにコーチングに努めている。また、職員の声を拾い上げ、環境整備・改善に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、定例会議での勉強会をはじめ、同法人内での交換研修や、同法人内の新規事業所立ち上げに伴う新職員の研修受け入れによるトレーニングにも取り組んでいる。また、外部研修に関する情報を職員間で回覧し、参加後に得た情報も共有している。働きながらの資格取得に関しても、シフトや金銭面での応援制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域独自のネットワーク「みやびネット」に参画し、ネットワークづくりに取り組んでいる。法人内他施設との交換研修や、その他、市のGH部会、介護フォーラム、グループホーム交流会、計画作成の集い等があり、勉強会や情報交換・共有を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各入居者様の、個別のニーズを聞き出すよう心掛けている。まず本人様の話を傾聴し、思いを受け止め安心して生活して頂けるよう努め、会話が困難な場合も、表情やしぐさ等から思いを受け止めるよう努めている。また、月に1度市町村からの介護相談員の訪問も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や、年2回の家族会開催時等、個別に家族様のニーズを聞き出すよう心がけている。日常でも電話やこころあい便りを通じ、常に些細なことでも報告し、家族様側からも些細なことでも話して頂けるよう働きかけ、家族様等の思いや要望等を話し易い関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や家族様とのコミュニケーションを重視し、要望を聴きニーズを理解することで必要な支援に対する情報を提供し、ご本人様や家族様がその時に必要とされているサービスの提供、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に生活しているという考えの下、入居者様の主体的な生活を支えるという立場で、掃除、洗濯、調理、買い物等の役割を持って生活して頂けるよう支援に努め、入居者様と職員が助け合い、支え合う関係を構築し「共に歩む」日々を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こころあい便りをはじめ、来所時や電話等で家族様に対し、本人様の情報・状況を良い事も悪い事も隠さず報告することで、常に職員と同じ情報を共有して頂き、家族様にも一緒に考えて頂き、意見を取り入れている。ご本人様と家族様との関係を大切に考え、共にご本人様を支えていける関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理念でもある「その人らしい」を大切に考え、人間関係の保持を重要視し、本人様の思い出の場所や入居前のなじみの店に買い物に行く機会、また家族様との絆は基より、入居前のなじみの人との交流の機会も遮断されることが無いよう、地域へ出ていく事で地域の方との関わりを継続できるよう支援に努めている。	本人の希望があれば、入居前から馴染みのある駄菓子屋へ職員と共に、おやつを買いにいくこともあります。また図書館に本を借りに行ったり、昔からの友人がホームに訪ねてくることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々人の性格等に配慮し、入居者様同志の相性も踏まえ、良好な関係を構築・保持できるよう、落ち着いた居場所を確保し、コミュニケーションの困難な入居者様も職員が介入する等して孤立することなく、良好な関係を築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も出会ったご縁を大切に、必要に応じて、家族様からのご意見・相談を受けることが出来るよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察を徹底し、本人様の希望を聴くことはもちろん、言葉にならない思いを感じるように努力し、職員間でのカンファレンスをはじめ、家族様からも情報を収集し、全職員間で共有、本人様本位であるよう努めている。	入居当初はセンター方式を活用し、利用者の把握に取り組んでいます。利用者の新しい情報などは、その都度申し送りノートやカンファレンス等で、情報を共有しています。3カ月に1度は、現場の職員から利用者の状況を聞きながら、介護支援専門員がアセスメントの見直しを行い、現状の把握に努めています。思いや意向の表出が困難な利用者には選択肢を提示し、自分で選択してもらえよう支援しています。	利用者の思いや意向などのアセスメント情報を今以上に把握し、共有化していく方法を検討して、利用者の思いの実現に向けての支援を充実させることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、家族様の情報等からこれまでの生活背景の把握に努め、他施設からの入居に関しては、介護支援専門員等から情報を収集し把握に努めている。また、可能な限りではあるが、日常の中でも本人様からのお話を聴かせて頂く事で、出来るだけ以前の生活に近づけるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去・現在の病歴を把握し、日々の様子観察や職員からの申し送り、カーデックス把握、バイタル・行動・表情の変化を確認しながら、心身状態の把握に努めている。また、入居者様の有する能力の把握に努め、可能性を職員側の支援で閉ざされてしまうことがない様に配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例カンファレンスの際のモニタリングや、3カ月毎の居室担当によるモニタリング等から、課題・ニーズの修正・変更の有無確認を行った上で、現在6か月毎に、ケアプランの見直し・更新を行っている。また、体調変化や入退院時等には、随時（本人様の状況に応じ、連携医の見解をもとに、家族様の意向をふまえ）新しい介護計画書に反映させるようにしている。	モニタリングは3カ月に1度行っています。その際、居室担当の職員もモニタリングを行い、その内容を介護支援専門員がまとめています。また、それをもとに担当者会議を行い、介護計画は3カ月に1度見直しを行っています。介護計画は、利用者の状態の変化に伴い随時見直しも行っています。介護計画には、家族のサイン・捺印があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子や言動、表情をありのまま記録し、日々の申し送り等を含め情報共有を行っている。また、介護計画をふまえた上で、気づきや、変化等もカンファレンスで情報交換し、見直しや日々のケアの実践に反映させるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>当ホームは「居住系」の性質上、同じ地域密着型の小規模多機能と異なる部分があり、多機能化という視点では難しいように思えるが、家族様等にも協力を仰ぎ、本人様の希望に叶うよう取り組んでいる。また、面会（好きな時間での）・外出（選挙・墓参り等）・外泊・居室への家族様の宿泊等もニーズに添うよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域密着型という位置付けにあり、行政及び福祉委員・民生委員・老人クラブの方々との、定期的な交流や、地域の学生や住民との直接的なふれあいの機会を設け、地域との関わりの中で本人様の心身の力を発揮しながら安全に心豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>開設時からのかかりつけ医（内科）による定期的往診（週1回）、定期検査を受けながら、日々の健康管理を通じ状態の安定に努めている。必要に応じ紹介状を書いて頂き、専門医療機関（内科以外）の受診を行っている。また、病床付医療機関とも提携し特変時にも対応できるよう努めている。心身の状態により本人様や家族様の意向に合わせ、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医であるクリニックの先生が週1回往診し、利用者の健康管理を行っています。夜間、緊急時等いつでも連絡がつくようになっており、必要であれば、すぐに駆けつけてくるような連携がとれています。専門医などへ受診する際には家族の支援が難しいときは、職員が付き添って介助しています。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の身体状況の把握により、気付いた点や気になる点等は、定期的訪問（週2回）時に、報告、相談し、指導を受けることで、早期対応（適切な受診や看護）と悪化防止に努めている。また、看護職からの職員への助言や指導は常に職員間で共有し、日々のケアに反映させている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者様の入院に際しては、当ホームサマリー（看護師作成）の提供をはじめ、入院期間中も面会による状況把握、病院関係者との情報交換に努めている。退院時は、主治医をはじめ必要に応じて理学療法士等の専門職からも、指示や助言を頂き、退院後の日常生活上の留意事項の把握に努め、事前に必要な環境を整え本人様に安心して、退院して頂けるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に意思変更可能である事も説明した上で、重度化・終末期に関する意向を伺っている。実際に重度化、終末期を迎えられる際にも医師、管理者、家族様（参加可能な常況であれば本人様含む）で今後の検討の話合いの場を何度か設定し、最終的には、医師の見解と、家族様（本人様）の意向を確認した上で、全職員間で情報を共有し、看取り介護に取り組んでいる。またGHは看取りが可能とされながらも、医療的ニーズの充実には困難なこともあるため、連携医の助言に基づき、早期の段階より家族様への説明および了承を得ながら、必要に応じては他医療機関等への調整もおこなっている。</p>	<p>オープン当初に看取りがあり、これまでに5名を看取っています。看取りをする時に、家族も職員も、本人の思いや情報を共有することが大切と考えています。居室に家族と職員との交換記録ノートを作成し、家族は言葉に出せない思いなどを記入しています。職員がその思いを汲み取ることで、看取りをすることの意味や意義を再確認し、看取り支援に臨んでいます。看取りの指針は入居時に説明し、確認後同意を得ています。主治医、看護師、職員ともその時の状況に合わせてカンファレンスを行い、方向性を検討しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師による勉強会を定期的に行い、応急手当や緊急時対応のシュミレーション等の訓練、緊急時対応ガイドライン、緊急連絡網の整備、周知徹底を図っている。また、ホームにAEDを設置し、全職員の普通救命講習（AED）の受講を支援している。また、実際に急変や事故発生があった際には、事後にも検証を行う事で実践力を養うよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備し全職員に通知し、避難経路の周知徹底を行っている。また、近隣周辺にも避難経路の説明や協力を依頼し、消防署の協力のもと近隣周辺へ通知した上、消防署合同・ホーム単独で、年に3回全入居者・職員で避難訓練を行い、マニュアル改訂を含め災害時対策に備えている。	年4回避難訓練を行い、うち3回は消防署の協力のもと実施しています。地域の方には、避難訓練のビラを配り、協力・参加を促しています。水、缶詰、スूप類などの備蓄を用意しています。また、誰もがすぐ目につく事務所の前に緊急持ち出し袋も置いて、いざという時にはすぐに持ち出せるよう準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りやプライバシー（排泄に関する声掛け、個人情報等含）を損なわない様に個々に応じた声掛けを行っている。 また、勉強会においてもプライバシー保護を取り上げ、学ぶ機会を設けて意識を全職員間で共有し、日々のケアに活かせるよう努めている。	管理者は、職員が利用者に対して、慣れ慣れしい言葉使いなど気になった時には、その人を尊厳するような話し方をするように注意しています。また、九州弁を話す利用者には、同じ方言で話すことができる職員が話しかけ、利用者が話しやすいように心がけています。職員の入社時には、個人情報の取り扱いについて誓約書をとっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り個々の希望に添える様に、いくつかの選択肢を示す事で、自己決定して頂ける様働き掛けている。また、日常のさりげない会話やコミュニケーションを通じ、言葉による意思表示や、自己決定の困難な入居者様に対しても発語や動作、表情等を観察する事で意思を汲取れる様努め、家族様にも相談・確認しながら希望に添うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の状態、ニーズ等を把握した上で、希望に添うよう努めている。居室で過ごされたり、フロアで他者様と過ごされたり、それぞれ個人のペースを、生活リズムや安全面にも配慮を行いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容をはじめ、月に1度は美容師に来て頂き、希望に応じた髪型にされたり、整容品等も個人の嗜好に合った物を使って頂いている。 服装も場面に応じ、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。また、食事の際の食べこぼしにも配慮しながら清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、買い物、調理、盛り付け、後片付け、配膳、下膳等を各入居者様のできる範囲で共に行っている。食べる事だけではなく準備の段階から、会話や自身ができる事への実感等を楽しんで頂ける様な雰囲気作りも含めて取り組んでいる。また、外出・出前にて好きなメニューを選んで頂いたり、誕生日会ではメニューを入居者様に考えて頂き、目の前で共に調理したり、ケーキ作りを行い、喜んで頂いている。	毎食業者から材料のみを配達してもらい、利用者にお手伝いをお願いしながら、職員と利用者が一緒に調理しています。利用者が使いやすい椅子や調理テーブルも用意し、利用者が意欲的に参加しやすい環境作りをしています。おやつや調味料などの購入は利用者と一緒に行っています。誕生会では、その誕生月の利用者に食べたいメニューを選択してもらっています。目の前で寿司を握ってもらう出張寿司を頼んだり、利用者の希望を聞き、出前をとることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供会社よりカロリー計算されたメニューを、ホーム内で調理し個々の食事形態に合わせて提供している。定期の重測定で体重の減少等が見られる際は、捕食の提供等で追加栄養摂取して頂き必要栄養分量の確保に努めている。水分補給に関しては、いつでも自由に飲んで頂ける様お声掛けし、摂取量を記録、15:00時点で中間計算し、1日最低でも1,000ccは摂取して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じたお声掛け・見守りを行いながら、自己にて困難な部分を介助させて頂き口腔ケアを行っている。個々人の口腔状態の把握に努め、週1回の歯科医師による往診時には、歯科医による口腔ケア・治療を受けられ、歯科医の意見も反映させた口腔ケアの実施に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、個々の排泄状況を把握した上で、排泄のお声掛け・誘導を行っている。また、失禁の軽減が図れる様、お声掛けの間隔や状況に配慮し、安易におむつを使用せず、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。お声掛け・誘導を継続しながらも失禁増加による本人様の落ち込みや混乱等が著しい場合は、パットやRパンの使用を検討し、本人様の心身の負担軽減を図っている。	利用者一人ひとりの排泄のタイミングについて把握し、声かけ、誘導により失禁の頻度を少なくできるよう支援しています。夜間も定期的に誘導しています。自立に向けた支援により、おむつからリハビリパンツへ、リハビリパンツから布パンツになった事例もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用のみに頼らず、水分摂取量の増量、乳酸製品・寒天等の食品摂取、腹部マッサージ、腹部用湯たんぽの使用や体操等を行い、便座に座われた際にいきみのお声掛けやウォシュレットにて刺激する等、自力での排泄と便秘予防に努めている。それでも排便が見られない時は、医師による下剤の調整や看護師による、浣腸・摘便等に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	十分に見守り出来る安全な環境で入浴して頂くため、週3日の入浴を基本に、個々に入浴を楽しんで頂けるよう時間帯や入浴の順番、温度等は本人様の体調を考慮した上で希望に添えるようにしている。また入浴剤やシャンプー・ソープ類、洗身タオル等は個々人の好みの物を使用して頂いたり、季節湯（ゆず湯）等で楽しんで頂くなどしている。	ほとんどの利用者は2日に1回入浴しています。希望があれば夜間でも入浴可能です。体調不良で入浴ができない時は、足浴しています。また、利用者の身体状況により職員が二人介助で行うこともあります。シャンプーや石鹸にこだわりのある利用者は、個人の好みの物を使用してもらったり、季節湯で楽しく入浴してもらえる工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の体調や、ニーズは毎日変化するので、体調管理を重視しながら、ソファや座イス等も利用し出来るだけ本人様の希望に添える様に休息して頂けるよう取り組んでいる。また、心地よい睡眠を取って頂けるよう環境整備（寝具、室温、湿度、空調、調光、保温等）に配慮し、気持ちの昂りで眠れない時等は、隣に寄り添い安心して眠って頂けるよう取り組んでいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の薬情については全職員が把握し、薬の変更・増減に関する把握もカードックスや申し送りを通し周知徹底するよう努めている。服薬介助の際には、ミスが無いよう二重のチェック態勢での服薬支援に努めている。また、服薬後の観察を怠らず、職員間で情報共有し、医師・看護師に報告している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の習慣や、生活歴を本人様・家族様等から情報を頂き、それらを活かした役割等を職員側から入居者様へ提案する形で、入居者様の意思を尊重し入居後も継続して頂けるよう支援している。また、喫煙や買い物、外出、出前、外食、ホーム内レクリエーション（行事含）等においても、希望を反映出来る様に取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の個々の身体的な状態や天候等に配慮し、いくつかのグループに分けて本人様の希望に沿って、外出（散歩や買い物）して頂けるよう支援している。また、家族様の協力の下、選挙や墓参り、一時帰宅や外泊等の支援を行っている。外出行事の際には、入居者様の希望を行き先等に反映させるようにしている。	近隣の散歩は日常的に実施しています。車いすの利用者もできるだけ外出できるよう支援しています。利用者の希望や要望に沿って、買い物などにも出かけ、スーパーの休憩所で、お茶を飲みながら休憩をすることもあります。その他、季節ごとの外出や、外食へも出かけています。選挙や墓参りへは、家族が連れて行くなどの協力も得られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理に関しては、難しい事が多いので、多数の入居者様はホーム側で預らせて頂いているが、中には家族様の了解の下、少額の金銭を自己にて管理して頂く等個々人に合わせた支援を行っている。また、外出時の買い物での清算の際には、本人様にお支払いして頂ける様に支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様の希望があれば、自由に電話や手紙の遣り取りをして頂けるよう、お声掛けを行っている。また、毎年家族様への年賀状も出来る範囲で本人様直筆のものを郵送している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にて不安や混乱無く、くつろいで過ごして頂けるよう安全を配慮した上で、共用空間の壁に季節に応じた装飾や、各入居者様の思い出の写真を貼る等、和めるような雰囲気作りを心掛けている。また、食卓にも季節の花を飾る等、ホーム内でも季節を感じて頂けるよう心掛けている。共用空間の環境整備（室温、湿度、空調、調光、換気等）にも配慮し、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	共有部分であるリビング兼ダイニングでは、利用者同士や職員との距離が身近にあり楽しく会話が弾んでいます。リビングの一部は畳敷きになっており、横になって休むことができたり、ゆっくり座れる椅子などが置いてあります。壁面には思い出の写真が貼るなど、和める環境作りに配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の椅子の他にも何箇所かにソファを配置し、フローア隣接の和室等、入居者様個々人が好きな場所で、入居者様同士の会話を楽しみながら過ごされる等、思い思いにリラックスして頂ける空間づくりを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、入居者様のご自宅で使用されていた愛着のある家具等を持ち込んで頂く事で、以前の生活との変化を最小限におさえ、家具の配置も安全を配慮した上で、本人様が混乱されない様配慮している。また、家族写真や思い出の物を飾る等し、本人様が居心地良く安心して過ごせる空間づくりを心掛けている。	各部屋のエアコン・カーテンはホームの備え付けとなっています。それ以外は、利用者は自由に持ち込みができ、使い慣れたタンス、ベッド、布団、衣装ケースなどを使用しています。また、お気に入りの人形、写真、本など、それぞれ思い思いの物を持ち込み、居心地良く過ごせるようになっています。新聞をとって読んでいる利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の介護計画を基に、生活意欲の向上に繋がる様なお声掛けや役割を共有し、「その人らしい」を念頭に、入居者様の目線に合わせて、トイレや居室の場所を掲示する等、認識の混乱削減に努め、出来るだけ自己能力を活用して頂けるよう支援している。また、安全面においても危機管理委員会を通し、安全な導線の確保と事故防止に努め全職員で安全かつ自立支援に繋がる様な環境作りに取り組んでいる。</p>		